

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成27年度農作物病虫害発生予察情報について

平成27年度農作物病虫害発生予報第15号を発表したので送付します。

平成27年度農作物病虫害発生予報第15号

平成28年3月22日  
徳島県

I. 果樹  
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 本年度(2015年度)の勝浦町における予察灯誘殺数は、8月2半旬までは平年並～やや高めに推移したが、8月3半旬以降は平年に比べて低めで推移した(図1)。上板町では、調査期間を通じて平年並で推移した(図2)。

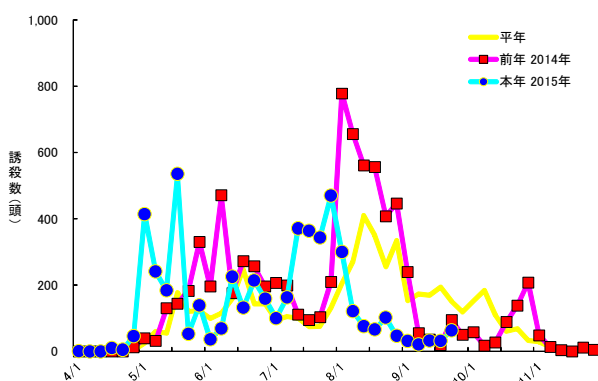


図1 予察灯によるカメムシ(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

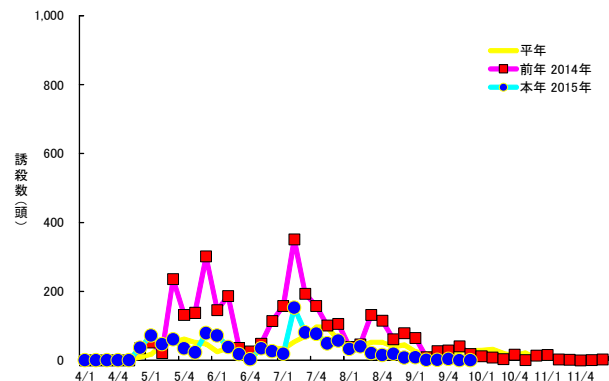


図2 予察灯によるカメムシ(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、6地点で越冬を確認、越冬成虫は0.2頭/m<sup>2</sup>であり、前年(調査地点数は11地点×2か所、成虫確認地点数は10地点、越冬成虫数は4.4頭/m<sup>2</sup>)に比べてやや低めの越冬密度であった。

(3) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

## II. 野菜

### 冬春トマト

#### 疫病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が30.0%で、平年(15.3%)に比べてやや高めの発生であるが、発病度は1.4で、平年(0.9)並の発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行なう。

#### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が5.0%、発病度が0.2)。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 葉かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.0%、発病度が0.02)。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20～25℃の比較的低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 肥料切れは病勢の進展を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。

(5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が40.0%で、平年(36.0%)並の発生であるが、寄生葉率は1.8%で、平年(3.7%)に比べてやや低めの発生である。なお、コナジラミ種類別割合は、オンシツコナジラミ(発生圃場率が40.0%、寄生葉率が1.8%)が、タバココナジラミ(10.0%、0.1%)に比べてやや高めの発生である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬春ナス

##### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が50.0%で、平年(9.5%)と比べて高めの発生であるが、発病果率は0.7%であり、平年(0.6%)並の発生である。

(2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。

(3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。

(4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

##### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病葉率が0.5%で、平年(2.4%、0.05%)に比べてやや高めの発生である。

(2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。

(3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## すすかび病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%で, ほぼ平年(64.0%)並の発生であるが, 発病葉率は20.5%で, 平年(12.2%)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わるが, 平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多いと予想されている。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25℃くらいで多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では, 発生圃場率が16.7%, 寄生葉率が0.7%で, 平年(2.4%, 0.02%)に比べてやや高めの発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## ミナミキイロアザミウマ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%で, 平年(52.1%)並の発生であるが, 寄生葉率は1.5%で, 平年(6.4%)に比べてやや低めの発生である。また, 被害果率は2.7%で, 平年(1.9%)並の発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 花器, 新葉, 葉裏, 葉の重なった部分などに集まる習性があるので, それらの部分に薬液が十分かかるよう, 丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## オンシツコナジラミ

### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%で, 平年(7.1%)に比べてやや高めの発生であるが, 寄生葉率は1.5%で, 平年(0.5%)並の発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が66.7%で、平年(4.4%)に比べて高めの発生であるが、寄生葉率は1.2%で、平年(0.1%)に比べてやや高めの発生である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬春キュウリ

##### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、発病葉率が10.8%で、平年(76.9%, 13.2%)並の発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

#### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病果率が0.5%で、平年(9.2%, 0.7%)並の発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### べと病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、発病葉率が14.9%で、平年(71.9%, 16.3%)並の発生である

(2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

(3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行なう。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.1%、寄生葉率が0.1%)。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## オンシツコナジラミ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生葉率が0.8%で、平年(1.7%、0.1%)に比べてやや高めの発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## ミナミキイロアザミウマ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が9.3%、被害果率が1.5%で、平年(31.9%、4.2%、0.1%)に比べてやや高めの発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう、丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春ハウレンソウ

### べと病

### 1) 予報の内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が40.0%、発病度が1.6で、平年(10.8%, 0.8)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 品種は、本病レース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 葉が繁茂すると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 春先の病勢の伸展を抑制するため、薬剤は予防的に用いる。
- (4) 薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているため、速やかに処分する。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、発生程度指数が0.5であり、平年(54.8%, 2.0)に比べやや低めの発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため、薬剤が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春イチゴ

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、葉における発生は認めていない(平年同時期は発生圃場率が6.5%、発病葉率が0.2%)。しかし、果実においては、発生圃場率が21.4%、発病果率が0.9%で、平年(5.1%, 0.3%)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬剤が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 灰色かび病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.2%、発病果率が0.6%)。
- (2) 3月17日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。

まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が42.9%で、平年(21.5%)に比べてやや高めの発生であるが、寄生株率は3.7%で、平年(3.8%)並の発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、寄生葉率が9.1%で、平年(58.6%, 10.0%)並の発生である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## Ⅲ. その他

- 1) 1か月気象予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、施設内外での温湿度の格差が大きくなるものと思われます。施設内の換気等の管理を適切に行なって下さい。
- 2) 水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期です。農薬による危被害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適切に処分して下さい。水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。
- 3) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。